

- 「ふるさと山梨」郷土学習推進事業
- 金融教育指定校の取組／県立笛吹高等学校
- キャリア教育推進実践研究校の取組／県立塩山高等学校
- 身近な地域スポーツ促進事業
- 博学連携の取組－美術館の取組「教育普及」ってなあに？
- 博学連携の取組－博物館の使い方いろいろ
- 主体的な学びをサポートするICT研修会を目指して
- 学校紹介／甲府市立南中学校・県立あけぼの支援学校
- 県立美術館「新収蔵品展」
- 県立美術館「ミケランジェロ展」
- 県立文学館春の特設展「辻嵐外 甲州の近代俳人」
- 県立考古博物館春季企画展と風土記の丘こどもまつりの開催
- 県立博物館開館10周年記念特別展「武田二十四将－信玄を支えた家臣たちの姿－」
- 山梨近代人物館人物紹介／富岡敬明
- 山梨の文化財／木造不動明王及二童子像
- 「第2回贈りたい本大賞」が決まりました

Click!

※指定ページにジャンプします



作品タイトル「考えている私」

大月市立大月東小学校

第6学年 おさだ なつき 長田 夏葵

指導者：かさい まさひろ 笠井 正宏 教諭

山梨県教育委員会

「ふるさと山梨」 郷土学習推進事業について

～ 主体的な学びの充実・グローバル人材の育成・地域創生のために～

義務教育課

1 事業の概要

「新やまなしの教育振興プラン」では、「子どもたちが郷土に誇りを持ち、自らの夢や希望を抱きつつ、たくましく、しなやかに育っていくように努める」ことを基本理念としています。

小中学校で行われる郷土学習は、この基本理念の実現のための中核であるといえます。

郷土学習は、身近な地域に関心を持ち、自ら課題を発見・追究する学習です。また、誇りを持って郷土のよさを紹介したり、よりよい地域づくりに参画したりする態度を育むことは、真のグローバルな人材の育成や地域創生にとって不可欠です。変化の激しい現代社会において、「郷土学習の意義」はますます高くなっています。

県教育委員会では、平成20年3月に郷土学習教材『ふるさと山梨』を発行し、現在は、全ての小中学校で『ふるさと山梨』を活用した郷土学習が実践されています。郷土学習推進会議を設け、郷土学習推進のための方策を検討し、「ふるさと山梨」郷土学習コンクールや「ふるさと山梨」郷土学習実践研究発表大会を主催してきました。

こうした取組を通して、児童生徒に郷土を愛する心が、着実に育まれています。

郷土学習の意義の高まり



2 「ふるさと山梨」 郷土学習コンクールと「ふるさと山梨」 郷土学習実践研究発表大会の様子

「ふるさと山梨」郷土学習コンクールは、県内の児童生徒が、郷土学習教材『ふるさと山梨』を活用し、そこから発展して自ら博物館などの利用や実地調査などの体験活動を行って研究した作品を募集してきました。年々出品数が増加し、今年度は、過去最高の1474点の応募がありました。郷土学習推進会議において厳正に選考し「ふるさと山梨大賞(知事賞)」等、優れた作品を表彰するとともに、その成果を紹介しています。

第8回「ふるさと山梨」郷土学習コンクール受賞者名・学校奨励賞(平成27年度実施)

小学校の部

| 部門名 | 小学校名 | 学年 | 氏名 | 研究課題 |
|-------------------|--|----|-------|----------------------------|
| □大賞 | 北杜市長坂小 | 6年 | 北原可菜 | 私の住む地域の土偶について |
| ■優秀賞 【低・中学年部門】 | 昭和町立西条小 | 3年 | 尾上遥 | 水の上にできたまち「昭和町」 |
| | 甲府市立湯田小 | 3年 | 益子晴 | つつじヶ崎館はなぜそこにできたか |
| ■優秀賞 【高学年部門】 | 山梨大学教育人間科学部附属小 | 6年 | 上田歩実 | 受けつがれる石和の徒歩鶏 |
| | 甲府市立中道南小 | 6年 | 米永委歩己 | おじいちゃんとおばあちゃんが育てた「中道の桃」大追跡 |
| ■優秀賞【富士山部門】 | 北杜市長坂小 | 5年 | 小尾暁菜 | 富士山の自然は標高によってどのように変わるのか |
| ◇優良賞 【低・中学年部門】 | 笛吹市立一宮南小 | 4年 | 田口結羽 | 山梨県のもとぶどう |
| | 山梨大学教育人間科学部附属小 | 4年 | 藤原楓奈子 | 山梨県に残る藤村式建築 |
| | 甲府市立舞鶴小 | 3年 | 戸澤伸哉 | 100人アンケートで「山梨県」を知ろう |
| ◇優良賞 【高学年部門】 | 北杜市立須玉小 | 6年 | 進藤久慈 | 須玉町の城跡 ～「天正壬午の乱を中心に」～ |
| | 韮崎市立甘利小 | 6年 | 秋山太志 | キュウリの輪切りが禁止されている村 |
| | 南アルプス市立白根飯野小 | 5年 | 野代七織 | 私の通学路にのこる戦争のあと |
| ◇優良賞【富士山部門】 | 富士吉田市立下吉田第二小 | 6年 | 白須智大 | 富士山の噴火と富士吉田の地形のひみつ |
| 学校奨励賞 | 北杜市立長坂小学校・甲州市立塩山南小学校・笛吹市立一宮南小学校・富士吉田市立下吉田第二小学校・道志村立道志小学校 | | | |

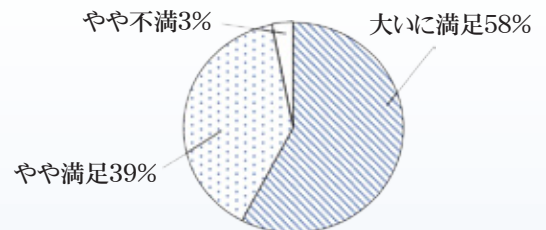
中学校の部

| 部門名 | 中学校名 | 学年 | 氏名 | 研究課題 |
|-------------|---|----|-------------------------------|---------------------------------------|
| □大賞 | 甲斐市立竜王北中 | 3年 | 小宮山 侑 佳 | 林業の未来 |
| ■優秀賞【風部門】 | 甲斐市立竜王北中 | 3年 | 高 松 将 人 | 氷河期からの住人 キタダケソウ |
| ■優秀賞【林部門】 | 甲州市立塩山中 | 2年 | 雨 宮 朋 暉 | 身近にあった戦争 |
| ■優秀賞【火部門】 | 甲斐市立竜王北中 | 3年 | 石 川 真 凜 | 青木正一（ひいおじいちゃん）と山の案内人 |
| ■優秀賞【山部門】 | 甲府市立北東中 | 1年 | 嶋 津 弘太郎 | 甲州財閥の秘密 ～これからの山梨の産業を考える～ |
| ■優秀賞【富士山部門】 | 河口湖南中学校組合立河口湖南中 | 2年 | 白 壁 侑 果 | 日本三奇祭の1つ 吉田の祭り |
| ◇優良賞【風部門】 | 甲州市立勝沼中 | 1年 | 上 矢 奈 花 | 勝沼の京戸川扇状地と農作物の関係 |
| ◇優良賞【林部門】 | 甲州市立松里中 | 2年 | 中 村 優 菜 | 古代から未来へつづく道 ～秩父往還に見られる遺産～ |
| | 北杜市立武川中 | 1年 | 鳶 木 里 珠 | 武川 ～昔のことを知る楽しさ～ |
| | 甲州市立塩山中 | 2年 | 那 須 麻 乃 | レンガと擬洋風建築！！山梨に今も残る明治の近代遺産 |
| | 甲府市立北東中 | 1年 | 丸 山 希 | 様々な表情からみた甲府空襲 ～教科書・体験者・世界の目から見た戦争～ |
| ◇優良賞【火部門】 | 北杜市立甲陵中 | 1年 | 栗 原 信 敬 | 富岡敬明と日野原（日野春）開拓 |
| | 身延町立久那土中 | 1年 | 石 丸 美 海 土 橋 マリア 深 澤 花 衣 | 木喰 ～多くの人に愛され続けるのはなぜか？～ |
| 学校奨励賞 | 甲府市立北東中・甲斐市立竜王北中・北杜市立甲陵中・富士川町立鯉沢中・身延町立久那土中・山梨市立山梨北中・山梨市立笛川中・甲州市立塩山中・甲州市立塩山北中・甲州市立松里中・甲州市立勝沼中・笛吹市立春日居中・河口湖南中学校組合立河口湖南中・大月市立猿橋中・大月市立富浜中・小菅村立小菅中 | | | |

平成27年10月27日に「ふるさと山梨」郷土学習実践研究発表大会が、総合教育センターで行われました。「ふるさと山梨」郷土学習コンクールの受賞者の表彰と研究発表、小中学校の郷土学習実践事例の紹介、郷土学習の在り方に関する講演などが行われ、大変有意義な発表大会となりました。



《発表大会参加者の満足度》



コンクールの大賞・優秀賞作品はホームページで見ることができます。

山梨県総合教育センター → 義務教育課 → ふるさと山梨

<http://www.ypec.ed.jp/gimukyo/furusato/top.htm>

Click!

3 新たな郷土学習教材を発行します

郷土学習教材『ふるさと山梨』は、多様な視点から山梨のよさを見つめ、児童生徒の探究的な学びのきっかけをつくる優れた教材ですが、「新しい話題やグローバル化に対応した内容がほしい」などの声が多く聞かれるようになりました。そこで、県教育委員会は「グローバル人材育成郷土学習教材作成事業」を立ち上げ、平成29年3月に新たな郷土学習教材を発行する計画を進めております。新教材の発行前に、現在の『ふるさと山梨』を今一度全ての児童生徒が目にする機会を設けてください。そして、新たな郷土学習教材にご期待ください。

グローバル人材育成郷土学習教材作成事業

【目的】 児童生徒が、富士山を始めとした山梨への関心を深め、郷土を愛し、郷土に誇りを持ち、諸外国等からの来賓者に対して、富士山を始めとした山梨のよさを、自信を持って紹介できるようにする。また、英語で簡単な紹介ができるようにするための新たな郷土学習教材を作成する。

【ニーズ】

- ・21世紀を担う山梨県の子供たち全てに、郷土を愛し郷土に誇りをもてるような心構えをより豊かに育む必要がある。
- ・富士山の世界文化遺産の登録や、新たな交通網の整備等により、世界に目を向ける人々の広がりや地域の活力の高まりが期待されている。

作成のポイント

- ・新しいデータへの更新
- ・富士山の世界文化遺産登録を契機に富士山に関する特集ページの追加
- ・外国人来県者に対する英語での紹介
- ・全市町村の話題を掲載
- ・探究的な学びのきっかけとなる教材とする

編集委員会

小中学校教諭（20名）、教育関係機関職員（博物館、考古博物館、文学館、美術館、富士山科学研究所）、事務所指導主事、義務教育課指導主事、国際文化課職員

検討委員会

大学教授・学習経験者・小学校部長・中学校部長・企画課長・義務教育課長・教育センター副所長・義務教育課指導主事

Mt Fuji is beautiful.

【おもてなし教育】
山梨のよさを紹介できる子世

平成26・27年度 金融教育指定校の取組

～ 金融教育を通して幸福な社会を築くための基礎基本を身につける～

県立笛吹高等学校

1 基本理念

本校は次の二つを教育の目標に掲げ、日々の教育活動を展開しています。

- (1) 自己の可能性を信じ何事にも主体的にチャレンジする生徒の育成
- (2) 広い視野を持ち地域社会の形成に進んで参加できる生徒の育成

本校での三年間でバランスのとれた「生きる力」を身につけ、生徒一人ひとりがそれぞれの夢の実現ができるよう、さまざまな取組への挑戦と実践をしています。

「金融教育」の目的は、お金や金融のさまざまな働きを理解し、それを通じて自分の暮らしや社会について深く考え、自分の生き方や価値観を磨きながら、より豊かな生活や、よりよい社会づくりに向けて、主体的に行動できる態度を養うことにあると言われています。これはまさに、本校の教育が目指す「人づくり」を実現させるための具体的な手立てであると考えます。

2 施策の具体的方向

本校は普通科、食品化学科、果樹園芸科、総合学科（環境緑地、情報観光、国際文化、人間科学の4系列）からなる総合制高校です。生徒の多様な学習ニーズに応えるべく科目設定も多岐にわたり、学習の基礎基本を大事にしながら専門性の高い内容の指導にも努めています。金融教育は、主に公民科や家庭科、商業科において実践されることが多いのですが、金融教育の視点から、生徒一人ひとりがわかったという満足感や自分の役割を考える授業の実現に向け、「幸福な生活を築くためのカリキュラムマネジメントの実践～金融教育を通して基礎基本を身につける～」を主題に、特別活動を含めた学校活動の全てにおいて、P D C Aサイクルの循環の活性化を図りました。

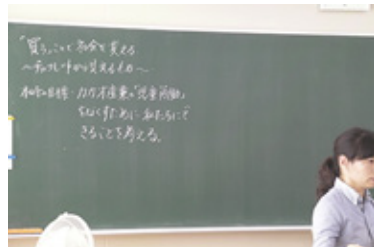
3 計画の実現に向けて

平成26年度は、主に総合的な学習の時間に金融教育に関わる講演会等を実施しました。また、本校の特色ある教育活動の一つである学校行事、「ふれあいフェスタ笛吹」を金融教育実践の場として位置づけ、農産物の販売やクラスの模擬店を金融教育の視点から捉え直し、生徒にお金の役割や、その適切な処理について考え、体験させるという取組を行いました。2月に中間報告会を行い、振り返りと次年度の実践内容の方針を確認しました。

平成27年度は総合的な学習の時間や学校行事での実践を継続するとともに、学校における教育活動の根幹である各教科の学習内容にも金融教育の視点を意識して取り入れ、10月にはその公開授業を開催しました。



金融広報中央委員会主催の講演会
中間報告会と金融教育公開授業日に2回実施



金融教育公開授業 科目「生活教養」
テーマ「『買う』ことで社会を変える」



学校行事「ふれあいフェスタ笛吹」の様子
校舎側が模擬店、芝生広場が果樹園芸科のブース

4 取組の成果と課題

2年間の金融教育の取組を通して、全職員が金融教育の視点から従来の観点を内省し、学習内容の深化に努め、生徒一人ひとりが社会との繋がりを深く意識し、社会の中で果たすべき役割や責任を改めて考える機会となったことが成果と考えます。目まぐるしく変化する社会にあっても、困難を乗り越える力となる「たくましくしなやかな心」を培い、全ての生徒が活躍でき、輝く人となるよう、この取組で得た見識を今後の教育活動に生かしていくことが本校の使命です。

キャリア教育推進実践研究校としての取組

～ 地域と連携した教育活動 ～

県立塩山高等学校

1 はじめに

平成26、27年度、県のキャリア教育推進実践研究校の指定を受けた本校は、甲州市の唯一の高校として、地域と連携しながら、生徒達が社会人として自立し、地域社会の一員として活躍できる資質や能力を身に付けることを目指し、学校全体でキャリア教育を推進しました。

2 研究主題

社会人・職業人として必要な意欲・態度・能力を育成する教育実践

～基本的な生活習慣を確立させ、地域との連携や体験的な活動を通し、コミュニケーション能力や協同して課題を解決する能力を培い、主体的に生きる力を育む～

研究主題に基づき、以下を重点目標として取り組みました。

- 基本的な生活習慣の確立**→あいさつ・時間を守る・身だしなみを整える
- 自己肯定感・コミュニケーション力の育成**→グループ活動・発表活動を取り入れた実践
- 甲州市唯一の高校として**→地域との連携

3 取組の概要

(1) 総合的な学習の時間の取組

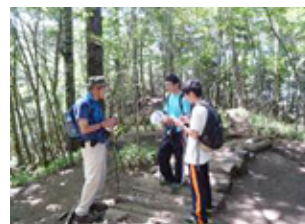
共通テーマ「社会に生きる」のもと、1年生では、新聞を活用した活動や博物館研修で地域を知るとともに、職業について調べ、発表する活動、2年生では社会で活躍する人にインタビューをし、まとめ、発表するという活動、3年生では、自ら課題を発見し解決する探究活動を行っています。今年度「地域の活性化」をテーマに探究活動を行ったグループは、甲州市役所で市長はじめ市の職員に活動内容をプレゼンテーションしました。



〈1年生〉新聞を使った活動・博物館研修



〈2年生〉インタビュー実践：
市内商店、日本銀行甲府支店



〈3年生〉現地調査・甲州市役所での報告会

「地域の活性化プロジェクト2015」

- 1班 甲州の食べ物を子どもを通して広めよう
- 2班 山梨の星空と癒し
- 3班 塩山と信玄公
- 4班 婚活～甲州市で子育てをするメリット～
- 5班 中央本線の魅力を伝える
- 6班 大菩薩の魅力を伝える

(2) 各教科の取組

グループ活動や発表を取り入れるとともに、地域と連携した授業を行いました。



市内の食生活改善推進委員会の方を招いての家庭科の授業

(3) 特別活動等の取組

【インターンシップ】

商業科2年生全員及び3年生希望者を対象に、夏期休業中の2～5日間にわたって行われました。その後、体験を各自まとめ、2学期に体験報告会を行いました。



インターンシップ風景と体験報告会

【中学生との交流会】

7月に本校1年生の英数コースの生徒全員及び商業科の代表生徒が松里中学校を訪れ、3年生に向け、高校生活について説明をしたり、中学生からの質問に答えたりする交流会を持ちました。また、夏休みの学校説明会では、全部活動の生徒が、クラブ紹介をしました。

【委員会活動・部活動】

それぞれの日頃の活動の成果を、地域で披露したり、地域の方々と一緒に取り組んだりしました。また、近隣中学校の生徒と合同練習や交流試合を行いました。



地域の祭で特産品を販売する商業研究部、司会をする放送部



演劇部：公立図書館で上演 茶道部：保育園で茶道教室

(4) 近隣中学校への授業参観

普通教科35名の教員が、近隣の9中学校の授業参観を行いました。中学校の授業風景や学校生活の様子を知る貴重な機会となりました。

(5) 講演会の実施

生徒が地域や社会に関心を持ち、自己の生き方在り方を考える契機となるように、今年度は「自己肯定感を高める方法」(夏見台幼稚園園主 鳥居徹也氏)、「山梨で生きるということ」(恵林寺住職 古川周賢氏)の講演会を実施しました。このほか、NIEアドバイザーや金融アドバイザーによる講演会をはじめ、総合的な学習の時間や学校行事において地域で活躍する様々な方の話を聞く機会を設けました。

(6) 校内職員研修会

教職員全体のキャリア教育に対する認識を深め、推進のための共通理解を図るものとして、昨年度は、藤田晃之筑波大学教授、黒上晴夫関西大学教授、今年度は土橋久忠山梨学院大学就職キャリアセンター次長を招き研修会を行いました。また、職員会議を利用し、ワークショップを行い、生徒の現状や課題、具体的な目標(目指すところ)について意見を出し合い、取組に生かしました。



職員会議を利用したワークショップ

4 おわりに

グループ活動や発表の機会をできるだけ多く作ることで、コミュニケーション能力や自己肯定感を育成しました。また、「甲州市に唯一の高校」という地の利を生かし、地域との連携を教育活動に取り入れることで、生徒達は「良い山梨を自分たちで作ってあげていくことを実感しました」などと述べ、地域社会の一員という意識を培うことができたと思います。今後とも地域の力を継続的に教育活動に生かし、取り組んでいきたいと思っています。

身近な地域スポーツ促進事業

～ スポーツ JanJan ～

スポーツ健康課

1 はじめに

身近なスポーツ活動を推進し、運動・スポーツの未実施率縮減や地域活性化を図るため、昨年度より本事業を開始し、「地域スポーツ推進協議会」の地域スポーツ委員を核に全市町村において身近なスポーツ活動の活性化に取り組んで参りました。昨年度の県政モニターによる調査では、スポーツ未実施率が22.4%（H25 40.5%）と改善傾向がみられました。本年度は、運動未実施者への働きかけや関係部署との連携促進等、昨年度の課題を踏まえ、次の4つの視点を考慮した取組を進めていくこととしました。

- A より身近な地域に「出向く」
- B 運動未実施者に対する運動との「接点」を考える
- C 関係部署・団体との連携を考える
- D 広報等の周知方法を工夫する

2 本年度の各市町村の取り組み

11月に行った第2回地域スポーツ推進協議会では、上記の視点別のグループに分かれ、各市町村からの実践発表や意見交換等を行いました。

【主な実践】

- Aの視点：北杜市の障がい者支援施設でのレクリエーション活動、南アルプス市の「ふれあいウォーキング」の実践等
- Bの視点：中央市の地域のお祭りとのコラボの実践等
- Cの視点：身延町の「町民いちスポーツ事業」や南部町の「なんぶ健康会議」の実践等
- Dの視点：甲州市のCATV・新聞・広報を活用した陸上教室の実践等

【北杜市】



【南アルプス市】



北杜市では、「白州いずみの家」の行事にスポーツ推進委員が出向きレクリエーション活動を楽しみました。南アルプス市では、旧市町村単位で開催地区を回し、身近な地域でウォーキングに親しんでもらっています。

【中央市】



中央市では、市内で開催される「与一祭り」などのお祭りにスポーツコーナーを開設し、参加者にスポーツを楽しんでもらっています。

【身延町】



身延町では、「町民いちスポーツ事業」の一環で、幼児体操教室を子育て支援課と連携して行っています。普段、体を動かす時間がとりにくい子育て世代には、よい機会となっています。

3 オリンピアンを活用した講演会の実施

本年度新たに、指導者・住民の意識啓発やスポーツ活動への参加意欲の向上を目的に、山口香先生（女子柔道ソウル五輪銅メダリスト 現筑波大学准教授）を講師に「オリンピックに学ぶ～スポーツを通じた元気な地域づくり～」講演会を8月29日、山梨学院メモリアルホールにおいて開催しました。山口先生から、前回東京オリンピックのレガシーやご自身の競技・指導経験、研究成果等を織り交ぜながら、オリンピックの意義、身近な市民スポーツの広がり大切さなど本当にわかりやすくお話しいただきました。参加者からはとても参考になったと好評価を得る一方、参加者を募る周知方法等の工夫について課題が残りました。

スポーツには力がある
人を変える
社会を変える
地域や国を変える



4 今後の取組

今後、これらに加え、協議会の代表を「生涯スポーツ・体力づくり全国会議2016」に派遣し、全国の動向や先進事例を各市町村に還元していきます。また、地域スポーツの指導者向けに、本年度の取組や山梨学院大学の長倉富貴先生からのアドバイスを織り交ぜながら、啓発資料「スポーツJANJAN」を発行いたします。

本年度は、昨年度以上に、関係部署との連携した取組が増え、また高齢者や障がい者等へのスポーツ活動の実践も報告されるなど、一定の成果を上げました。来年度以降も多様な主体が連携した取組を促進させ、各地域のコミュニティが活性化し、地域住民が一層スポーツに親しめるよう、本事業の充実を図って参ります。

博学連携の取組

～ 美術館の取組 「教育普及」ってなあに？～

県立美術館

山梨県立美術館には歴史的・文化的価値のある作品が約1万点所蔵され、常設展として季節ごとに展示替えを行っています。それ以外にも山梨県ゆかりの作家や国内外の美術を紹介するため、特別展を年間4～5回行っています。

これらをより多くの人に味わっていただきたいという思いから、「教育普及」の取り組みが始まりました。「教育」という言葉から、子供向けの内容をイメージされる方も多くいらっしゃるようですが、ここでは広く社会教育の内容も含んでいます。

これから、教育普及の大きな2本柱である、「学校教育に関わるもの」と、「社会教育に関わるもの」について紹介したいと思います。

1 学校教育に関わるもの

○スクールプログラム

教育課程の一環で来館された時には、職員と一緒に作品をじっくり鑑賞します。感じたことを素直に言葉にしたり、作品から様々な価値を発見し、グループで仲間や作品との対話を楽しんだりしながら作品鑑賞をしています。展示作品に使用されている画材を使い、技法を体験することもできます。

図工、学活、総合的学習の時間などを利用して、展示室での作品鑑賞を行い、情操教育や造形教育に役立ててくださっている学校もあります。とくに、美術館近隣の新田小学校では、毎年6年生が発表会形式で当館所蔵作品のギャラリートークを行っています。



○教師のための鑑賞研究会・鑑賞研修会受け入れ事業

特別展ごとに、「教師のための鑑賞研修会」を実施しています。より多くの先生方に美術館に足を運んでいただき、教育普及事業、展覧会について興味関心を持っていただく機会として実施しています。本年度は、学芸員によるギャラリートークや、アートカードの研修会を行いました。鑑賞研究会に参加できない場合でも、学校の研修会として鑑賞や実技研修会を行う利用がありました。

○出前授業・教材貸し出し

子どもの図工・美術への興味・関心を高める取り組みも様々な形で提供しています。例えば出前授業では、先生方と一緒に授業を計画したり、アイデアを提供したりする中で、創作活動や鑑賞の授業などをします。

教材貸し出しは、アートボックス、アートカードの2種類を用意しています。アートボックスの中には、本物の作品や、制作の工程がわかる資料などを揃えています。版画、油彩、日本画や、「種をまく人」「落ち穂拾い」の衣装セットなど13種類を用意しています。アートカードは、鑑賞に対する意欲を引き出すために、所蔵作品を印刷したカードを使って、遊びながら作品に親しむことのできる教材です。



山梨県立美術館 教育普及イベント一覧

| | | | イベント名 | 主な対象 | 内 容 |
|-------------|---------|----|-----------------|---------|--|
| キッズ・プログラム | つくる | 1 | 造形広場 | 幼・小 | 山梨学院短期大学、伊藤美輝先生による、リサイクルの材料によるワークショップです。 |
| | | 2 | 創作教室 | 小・中 | ものづくりや造形活動をとおして、芸術に親しみます。 |
| | みる・かんじる | 3 | こども美術館 | 小・中・保護者 | 特別展の作品について、学芸員と一緒に鑑賞します。 |
| | | 4 | 家族で美術館を楽しむ日 | 小・中・保護者 | 山梨県立美術館の誕生日に、展示作品を鑑賞したりして楽しめます。 |
| | | 5 | 中高生のためのアートレクチャー | 中・高 | 中高生を対象に、ギャラリートークやレクチャー、創作活動などをします。 |
| 大人のためのプログラム | つくる | 6 | 美術体験・実技講座 | 中・高・おとな | 作家を講師に招き、作品制作について専門的に教えていただきます。経験者コースと初心者コースがあります。 |
| | みる・かんじる | 7 | 大人のための美術講座 | おとな | 特別展に関して、学芸員や講師が講義をします。 |
| | | 8 | ギャラリートーク | おとな | 学芸員が展示室で作品について解説をします。 |
| | | 9 | 講演会 | おとな | 特別展に関して、講師にお話をさせていただきます。 |
| すべての人のプログラム | みる・かんじる | 10 | 映画会 | すべて | 特別展に関連した映画を上映します。 |
| | つくってかざる | 11 | みんなで作る美術館(みなび) | すべて | こども、大人、障がい者の誰でも参加できるワークショップです。できあがった作品はみなび展に展示します。 |

2 社会教育に関わるもの

社会教育事業について、いくつか取り上げたいと思います。子どものためのプログラムのうち、造形広場と創作教室は、どちらもつくることを目的としたプログラムです。前者が幼児から低学年を主に対象とし、申し込み・参加費不要とするのに対して、後者は小学生以上を対象に、申し込みをしていただき、時には材料費を頂くような内容のものを選んでいきます。創作教室の方が、高学年向きの内容となっています。

また、キッズプログラム、中高生のためのアートレクチャーなどは展示を見て楽しむ鑑賞プログラムとなっています。ただし、対象となる学年によってその内容に創作活動を組み込み、鑑賞を深め、楽しめるような工夫をしています。

みんなで作る美術館(みなび)というプログラムは、大人、子ども、障がい者を含むすべての人が参加できるプログラムです。最大の特徴は、時には個々に、時には共同で創作体験をし、つくったものを持ち帰る前に美術館に飾り、「みなび展」を開いて一般の方とともに鑑賞する、というところです。夏休み中の「みなび展」には、参加者の作品がところ狭しと並びます。

私たち教育普及のスタッフは、より多くの方々に、芸術に親しみ、愛好する機会を増やすために知恵を出し合っています。内容にご興味を持たれた方は、ぜひ一度美術館まで足を運んでいただければと思います。

【お問い合わせ】
山梨県立美術館
TEL 055-228-3322



博学連携の取組

～ 県立博物館の使い方いろいろ ～

県立博物館

【目的】

県立博物館の目指す大きなテーマの一つに「博学連携」があります。これは、博物館と学校が望ましい形で協力を図りながら、子ども達の教育を進めて行こうという取り組みです。「e教育やまなし」でも、何回か掲載させていただいていますが、今回、改めて、博物館の活用方法について、紹介いたします。

【事例1】博物館に児童・生徒を連れて行く

何と言っても、生の教材に直接触れることほど効果的な学習方法はありません。博物館には、年間約130校、12,000人あまりの児童・生徒が来館し、見学や学習を行っています。具体的な利用例は、「遠足・県内巡りなどの学校行事」、「社会科見学、教科等での学校行事」、「職場体験学習（インターン）」等、年間をとおし、来館していただいています。



【事例2】博物館の「もの」を使ってみる

学校への貸出教材（ミュージアムキット）を用意しています。主な物には、「甲斐国関係の古代木簡レプリカセット」、「戦国時代キット」、「江戸時代キット」、「旅姿キット」等、この他に書籍、DVD、オリジナルの紙芝居等があります。この中で、特に人気なのが鎧、太刀、火縄銃がセットになった「戦国時代キット」で、県外の学校からもリクエストがある教材です。

【事例3】博物館の「ひと」を使ってみる

県立博物館の職員が、県内の小・中・高等学校におじゃまして「出前授業」を行っています。内容は主に「社会科」や「総合的な学習の時間」、「博物館見学の事前学習」、「教職員研修会」等で、小・中・高等学校の各学年の授業に対応できるテーマを揃えており、その中でも特に「昔の道具体験」や「修学旅行事前学習」等は、先生方から好評をいただいています。



【事例4】まず先生が博物館に親しんでみる

学校の教育課程の中で博物館を有効に活用できるよう、活用事例の開発及び教職員の博物館での学習機会を確保するため、ティーチャーズクラブを運営しています。会員の先生方には、博物館を見学し、学校の授業や博物館を利用した校外学習の際の有効な博物館活用方法を探ることで、県内の児童生徒の郷土学習が推進されることを目的としています。会員になると、会員証が発行され、県立博物館の常設展示・企画展示が何度でも無料で観覧頂けます。入会費も年会費もかかりません。県内の学校、教育機関に勤務されている教職員の方ならどなたでも会員になれます。まず、先生方から、博物館を積極的に利用しましょう。

県立博物館には以上のように、様々な活用方法があります。新学期を迎えるにあたり、県立博物館の利用を考えてみませんか。詳しくは当館ホームページか、企画交流課（055-262-1278（直通））までお問い合わせ下さい。

主体的な学びをサポートするICT研修会を目指して

～ 情報活用能力の育成を踏まえて～

総合教育センター 情報教育部

平成27年3月、文部科学省から「情報活用能力調査」の結果を受け「21世紀を生き抜く児童生徒の情報活用能力の育成のために」が出されました。調査は小学校5年生・中学校2年生を対象に、①情報活用の実践力②情報の科学的な理解③情報社会に参画する態度の3観点から出題されました。

この報告の中で、情報活用能力の3観点と8要素（右図）とともに、これら情報活用能力を育成する学習活動例も示されています。また調査結果から分かった情報活用能力の課題とその解決法などが具体的に示されており、大変参考になる報告書です。次にリンクを載せましたので

一読頂き、情報活用能力育成の一層の充実をお願いします。

<http://jouhouka.mext.go.jp/school/pdf/shidoujirei.pdf>

Click!

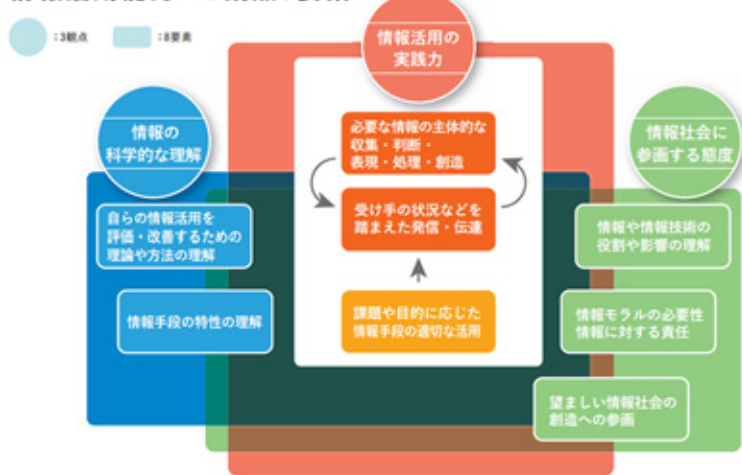
また、次期学習指導要領改訂の視点として、「新しい時代に必要となる資質・能力」や「どのように学ぶか」があげられており、情報活用能力をはじめ、アクティブ・ラーニングなどICT機器の活用が不可欠となっています。

このような背景や県の「学力向上推進事業」を踏まえ、総合教育センターでも、「学力向上に資する研修」の充実を再確認して取り組んでいます。本年度、情報教育部では、研修会名に「タブレット」または「ICT」という言葉を入れた研修会を4つ実施しました。どの研修会も定員を上回る受講希望があり、先生方の興味関心の高さが伺えます。機器の関係もあり受講できなかった先生方に対し、一部ではありますが11月にフォロー研修も実施しました。

さて、本センターでは今、来年度の研修会を企画していますが、情報教育部でもより一層充実したICT研修会を目指して内容の検討を重ねています。また、2年後の情報棟パソコン室の機器更新を踏まえて、上記文科省の報告書や次期学習指導要領が目指す「主体的な学び」の実現に結びつくICT機器の導入に向けシステム構成も見直しています。今後は、これまでの機器やアプリの習得から、授業で役立つICT機器活用や児童生徒の情報活用能力の育成を中心にした研修へとシフトすべく取り組んでいます。今後も、現場で役立つ情報教育研修会の実施に努めて参りますので、多くの先生方の積極的な研修会参加をお願いいたします。

授業に役立つタブレット研修（H27年7月28日実施）より

情報活用能力の3観点8要素



南中学校 ～ J R C の理念に基づいた主体的な生徒の育成 ～

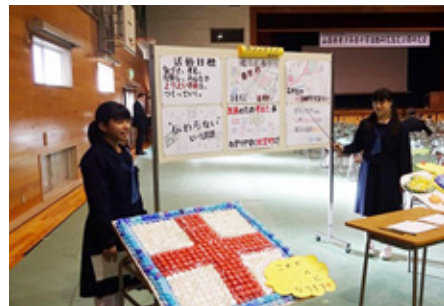
甲府市立南中学校

11月6日に「平成26・27年度山梨県青少年赤十字活動研究指定公開研究会」において、2年間の研究の成果を、南中学校、湯田小学校、伊勢小学校の3校が公開授業として発表しました。本校では、J R C の態度目標である「気づき・考え・実行する」の理念の基、「自ら気づき課題解決に取り組み、よりよい生活の実現のため、主体的に活動できる生徒の育成」を目標に研究を進め、公開当日は、特別活動・道徳・国語・数学の4つの実践を提案しました。



「振り子の長さや周期の関係を調べよう」
実験結果を基に規則性を見出す数学の授業場面

体育館には、南中学校の各委員会活動の取組の成果や課題について、生徒がグラフや写真、文章等で簡潔にまとめた掲示物が置かれました。来ていただいた方に分かりやすく伝えられるようデザイン等も工夫しました。公開授業後の各委員会の発表場所では、発表者の生徒たちが一所懸命に活動内容を参観者に説明し、温かい雰囲気の中で多くの賞賛と励ましの言葉をいただくことができ、生徒たちも取組への自信と南中に対する誇りを持つことができました。



分かりやすく伝えるために、生徒自ら委員会活動を工夫し発表したポスターセッションの場面

より質の高い自立と社会参加をめざした支援機器の活用

県立あけぼの支援学校

本校は昭和33年、肢体不自由児療育施設あけぼの学園として開設され、昭和49年に肢体不自由のある児童生徒を対象とした「県立あけぼの養護学校（現在の支援学校）」が開校し、昨年、創立40周年を迎えました。隣接するあけぼの医療福祉センターに入所又は通所する県内外の児童生徒と、通学区内の韮崎市、北杜市、南アルプス市に居住している児童生徒が、小学部・中学部・高等部あわせて80人在籍しています。

本校では昭和50年代の電子タイプライターの時代から、児童生徒が障害による困難を克服・改善するための重点的な取り組みの一つとして、A T（アシティブ・テクノロジー：障害による困難の軽減や改善を支援する機器）の活用を推進しています。

5年前より、本校と共同研究を行う山梨大学工学部の小谷教授の御厚意もあり、コンピュータへの入力を、マウス等に代えて行うことのできる視線入力装置を5台整備しました。軽度障害児童生徒の視線による入力の学習や、重度重複障害児童生徒の「見る力」を高める学習に取り組んでいます。また、タブレット端末の活用を進めており、各教室に1台ずつ設置している端末や、高等部の生徒が就学奨励費で購入した個人の端末を、普通の授業で活用するとともに日常のコミュニケーションの代替手段としても活用しています。

今後も、「より質の高い自立と社会参加」をめざして、A T の活用を推進していきたいと考えています。



視線入力装置を使った学習



コミュニケーションでの活用

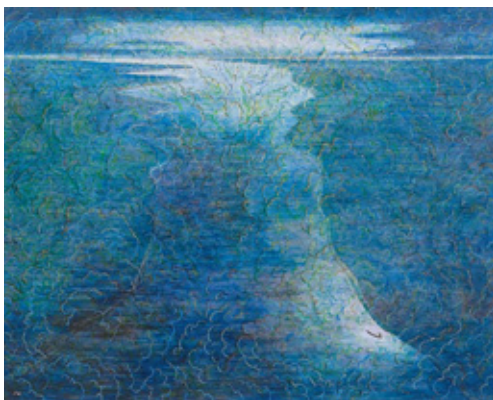
平成27年度新収蔵品展

県立美術館

山梨県立美術館が平成27年度に新たに収蔵した作家たちの代表的作品を紹介します。

甲府市に生まれ、山口県を拠点に活躍し受賞を重ねる洋画家、秋山泉（1938～）の近年の代表的油彩作品、甲府市に生まれ、日本を代表するグラフィック・デザイナーとして、同時に版画家として国内外で評価されている遠藤享（1933～）の新作版画、上野原市生まれの版画家河内成幸（1948～）による2004年の力作、昨年度の特別展「やまなしの戦後美術—四人の革新者たち」展に出品された市川大門生まれの橘田尚之と甲府市生まれの深沢軍治それぞれの代表的作品、中国故事等を題材に画と書が混然となった独自の画境を開いた甲府市生まれの三枝茂雄（1920～1989）の円熟期の作品、塩山市に生まれ、日展で活躍しながら、白涛会を主催し、山梨大学で教鞭を執るなど本県への貢献も高い加藤和夫（1919～2003）の大作、東八代郡に生まれ、新興大和絵会で活躍した穴山勝堂（1890～1971）の風景画などを紹介します。

他に、森寛斎の日本画や、秋山逸生や川北良造の工芸作品なども紹介します。



秋山泉《時間の交差Ⅲ》2012年
油彩・麻布



橘田尚之《work, r, 1》2006年
アクリル、さび、アルミニウム・麻布

平成27年度新収蔵品展

日 時：平成28年3月26日(土)～平成28年4月10日(日)

場 所：山梨県立美術館 特別展示室 甲府市貢川1-4-27

休館日：月曜日

観覧料：無料

問い合わせ先：TEL 055-228-3322

関連HP：<http://www.art-museum.pref.yamanashi.jp/>

Click!

ルネサンスの巨匠 ミケランジェロ展

県立美術館

“神のごとき” 芸術家と讃えられたミケランジェロ・ブオナローティ（1475～1564）。レオナルド・ダ・ヴィンチとともにルネサンスの二大巨匠として君臨し、人類の宝ともいふべき芸術を遺しました。《ピエタ》や《ダヴィデ》など、石の塊から造形を彫り出した彫刻家であり、システリーナ礼拝堂に《創世記》や《最後の審判》など、壮大な物語を描いた画家であり、《サン・ピエトロ大聖堂》、《メディチ家礼拝堂》の造営などを手がけた建築家でもありました。

ミケランジェロは西洋美術史上のあらゆる分野に影響を及ぼしたと評されます。本展では、彼の創造の軌跡と制作過程を、彼の子孫のコレクションを引き継ぐカーサ・ブオナローティ所蔵の素描や建築設計図、書簡など貴重な作品によって辿ります。ルネサンス最高峰の芸術を紹介する展覧会です。



※日本初公開作品
《システリーナ礼拝堂天井画
〈クマエの巫女〉のための頭部習作》
1508-10年頃
トリノ王立図書館蔵
©Torino, Biblioteca Reale

■ イベント情報

◇こども美術館「ミケランジェロに挑戦！」

5月29日(日)

①10:00～11:30 ②13:30～15:00

対象：小学生（1～3年は保護者同伴）

（定員15名、参加無料、申し込みが必要）

■ その他の関連イベント

◇記念講演会 ◇記念コンサート

◇ギャラリー・トーク ◇映画会

※詳細は美術館HPまたは展覧会チラシをご覧ください。

ルネサンスの巨匠 ミケランジェロ展

日 時：平成28年4月23日(土)～平成28年6月12日(日)

休館日：月曜日（ただし、5月2日(月)は開館）

場 所：山梨県立美術館 特別展示室

観覧料：一般1000(840)円・大学生500(420)円

※()内は20名以上の団体料金、前売料金、宿泊者割引料金

高校生以下の児童・生徒は無料

県内65歳以上の方は無料 障害者手帳をご持参の方はご本人と介護の方1名が無料

問い合わせ先：県立美術館 TEL 055-228-3322

関連HP：<http://www.art-museum.pref.yamanashi.jp/>

Click!

春の特設展

辻嵐外 甲州の近世俳人

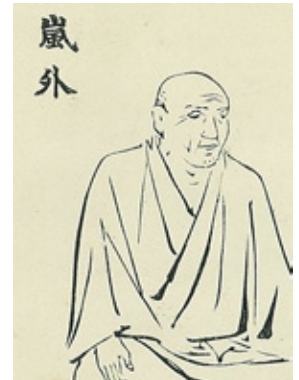
県立文学館

1 はじめに

江戸時代後期の甲州俳壇に活躍した俳人、辻嵐外^{つじらんがい}は、お酒が大好きで絵が得意。残した書画の数々はお洒落でユニークです。本展は文学館が所蔵する資料のほか、県内に残る書画の数々を集めました。その作品と書の魅力をお楽しみください。

2 辻嵐外について

嵐外は、1770（明和7）年、越前の国敦賀（現 福井県敦賀）に生まれ、1795（寛政7）年、甲州藤田村（現 南アルプス市）の五味可都里^{かづり}を頼って甲州に来ました。住まいを何度か移しながら、1845（弘化2）年、75歳で亡くなるまで甲州で過ごしました。多くの門弟の中でも代表的な十人は「嵐外十哲」と呼ばれ、幕末から明治初期の甲州俳壇を支えた人々です。超俗洒脱な人として知られた嵐外の書画は今も多くの人に愛されています。



辻嵐外像（『峡中俳家列伝』より）

3 みどころ

嵐外が一年十二ヶ月それぞれの季節に寄せた俳句にみずから描いた画を添えた12点の軸装を一同に展示します。例えば、二月は「鶯の啼木ばかりの二月かな」の句に梅の木の絵、三月は「雛ひとつ鏡のうちにかざりたき」の句に雛人形の絵が書き添えられています。五月は端午の節句ののぼり旗、七月は七夕飾りの笹の絵が、さっと一息に描かれています。季節とともにうつろう日本の暮らしの豊かさが、句と画の両方で楽しめる12点の軸装です。嵐外と同時代、甲州の台ヶ原（現 北杜市白州町）で活躍した俳人、北原台眠の家に伝わる逸品です。

ほかにも「きかさじとするはつ声か子規」自画賛、「ゆふだちや骸の垢のぬける音」自画賛など、時にユーモラス、時に凄みのある嵐外作品の数々を展示します。



嵐外十二ヶ月軸装より「鶯の啼木ばかりの二月かな」「雛ひとつ鏡のうちにかざりたき」個人蔵

春の特設展 辻嵐外 甲州の近世俳人

会 期：平成28年4月29日（金・祝）～6月19日（日）

場 所：山梨県立文学館 甲府市貢川1-5-35

休館日：月曜日（ただし、5月2日（月）は開館）

観覧料：一般320（250）円 大学生210（170）円 ※（ ）内は20名以上の団体料金

※常設展観覧料で御覧いただけます。高校生以下の児童・生徒は無料

問い合わせ先：TEL 055-235-8080

関連HP：<http://www.bungakukan.pref.yamanashi.jp/>

Click!

平成28年度春季企画展と風土記の丘こどもまつり 開催のお知らせ

県立考古博物館

◆春季企画展「お肌のキレイな縄文土器 ～一の沢遺跡と酒呑場遺跡～」が始まります

県立考古博物館では、平成28年4月23日（土）～6月12日（日）の期間に春季企画展「お肌のキレイな縄文土器～一の沢遺跡と酒呑場遺跡～」を開催します。

山梨県は『縄文王国』とも呼ばれており、県内各地の遺跡からたくさんの土器が出土しています。山梨県の縄文土器の特徴は何と言ってもその優れた造形美にあります。もうひとつ忘れてはならないのが、なめらかで肌理（きめ）の細かい「お肌」の美しさです。中でも国の重要文化財に指定されている一の沢遺跡（笛吹市）と酒呑場遺跡（北杜市）から出土した土器は、表面の土肌がひとときわ細やかで、山梨県に生きていた縄文人たちがいかに精選された胎土（たいど）を用い、丹念に磨き込んでいたかを物語っています。

今回の企画展ではいつもと少し視点を変えて、山梨の良質な土が生み出した美器の面（おもて）をじっくりと堪能してみませんか。



▲重要文化財 顔面把手付土器・顔面部の一の沢遺跡出土

◆ 春季企画展「お肌のキレイな縄文土器 ～一の沢遺跡と酒呑場遺跡～」 ◆

会 期：平成28年4月23日（土）～6月12日（日）

観 覧 料：無料

問い合わせ先：県立考古博物館 TEL 055-266-3881

関連HP：<http://www.pref.yamanashi.jp/kouko-hak/>

Click!

◆今年も「第28回風土記の丘こどもまつり」を開催します！



▲縄文土器ドラムバンドの演奏会に参加する子どもたち

平成28年5月4日（水）・5日（木）の2日間にわたって「第28回風土記の丘こどもまつり」を開催します。毎年恒例となっているこのイベントでは、勾玉作り体験や狩猟体験といった古代にちなんださまざまな体験や縄文土器ドラムバンドによる参加型の演奏会などを行っています。

昨年は2日間で延べ34,000人もの来場者があり、五月晴れの空の下、曾根丘陵公園全体が大いに賑わいました。

緑に色づく初夏の風土記の丘で、自然と親しみながら楽しいゴールデンウィークを過ごしませんか。ぜひご家族そろってお越しください。

（※施設整備の関係で予定が大幅に変更になる場合があります。詳しくはお問い合わせください。）

◆第28回風土記の丘こどもまつり◆

平成28年5月4日（水）・5日（木） 午前9時～午後3時30分（予定）

※アトラクションは無料ですが、体験によりチケットが必要なものがあります（先着順）

問い合わせ先：県立考古博物館 TEL 055-266-3881

開館10周年記念特別展

武田二十四将 — 信玄を支えた家臣たちの姿 —

県立博物館

1 信玄を支えた家臣「武田二十四将」

1月にスタートした大河ドラマ「真田丸」は、1582年（天正10年）の武田氏滅亡から物語が始まりました。武田勝頼に岩櫃城（群馬県）へ来ることを進言した真田昌幸をはじめ、武田家臣の様々な動向が演じられ、注目を集めました。戦国大名武田氏の命運が、織田信長など大名との戦いはもちろん、家臣たちの動きにも左右されたことがお解りいただけたことでしょうか。

「戦国大名」と言うと、織田信長、上杉謙信、毛利元就など、著名な人物の名前が浮かび上がるでしょう。甲斐の武田信玄も、全国有数の戦国大名として、そして武田氏を大きく発展させた偉人として、今も県内外の人々から親しまれています。

その一方で、彼らの下で働いていた家臣たちのことは、大名に比べればあまりよく知られてはいません。戦国大名の発展は家臣の存在なくしては実現しえないもので、彼らが大名の下でいかなる働きをなしたのかを、詳しく知る必要があるでしょう。

武田氏の場合には、信玄のもとに数多くの優秀な家臣がおり、後世「武田二十四将」として語り継がれることになりました。県立博物館では、開館10周年を記念する特別展として、武田二十四将を中心とした武田氏の家臣団について紹介する展覧会を開催します。



武田二十四将図

2 みどころ

一口に「家臣」といっても、役職や身分など、様々な階層の家臣が存在していました。まず、武田信廉（逍遙軒）・武田勝頼など信玄と血縁関係にある一族を「一門」と呼び、家臣の中で最も重きをなす存在でした。次に山県昌景・春日虎綱（高坂弾正）らの家老衆がおり、武田氏の行政や外交、軍事は彼らが中心となって担いました。



「山本菅助」の名を記した武田晴信（信玄）の書状

武田氏が他国に領土を広げる過程で服属した地元の武将を「先方衆」と呼び、ドラマに登場する真田氏もこのグループに入ります。そして山本菅助（勘助）や原虎胤は「足軽大将」といわれ、彼らは政治的な働きよりも、戦働きを専らとしました。

本展ではこうした家臣たちゆかりの古文書や肖像、武具などの関連資料をとおして、武田氏の家臣として活躍した彼らの足跡を紹介します。展示では、山本菅助に関する新発見の資料や、ドラマで注目を集める真田氏に関する資料なども紹介する予定です。また子ども向けの鎧の試着体験イベントなども開催しますので、ぜひご利用ください。

開館10周年記念特別展 「武田二十四将— 信玄を支えた家臣たちの姿 —」

日 時：平成28年3月19日（土）～平成28年5月23日（月）

入場料等：一般1,000円、大学生500円

小・中・高校・特別支援学校の生徒は無料です。

問い合わせ先：県立博物館 TEL 055-261-2631

関連HP：<http://www.museum.pref.yamanashi.jp>

Click!

山梨近代人物館

学術文化財課

転換期の山梨をリードした富岡敬明



1871（明治4）年11月、県名が甲府県から山梨県に改まりました。その山梨県の船出に大きく影を落としたのが、翌夏に勃発した大小切騒動です。この騒動は、農民にとって有利な税制となっていた大小切税法の存続を要求する数千人の農民が、廃止を断行する県庁に押しかけるという事態に発展しました。土肥実匡^{どひさねまさ}県令と共にこの事態收拾にあたったのが、小城藩^{おき}（佐賀藩支藩）出身で権参事^{ごんのさんじ}（副知事級）の富岡敬明（1822－1909）でした。県令は農民勢の

要求を受け入れた黒印状を手交したものの、軍隊の到着後に恵林寺（甲州市）で撤回し、騒動の首謀者2名を死罪に処します（さらに1名を処刑）。富岡はこの処置を残念に思い、騒動への大赦が行われたのち、恵林寺へ騒動処罰者の慰霊碑が建立される際には、碑の篆額を富岡がしたためています。

富岡は明治8年（1875）に名東県^{みょうとう}（現在の徳島県など）権令に転じるまでの約3年間、山梨県の近代化に尽力します。騒動の翌年に着任した23歳年下の藤村紫朗権令とともに、県内の産業や道路、学校の整備を推進し、富岡は特に日野原（現在の日野春）の開拓に力を注ぎました。日野原開拓は草刈場だった原野に桑・茶・葡萄などを植え付けるもので、富岡は県庁での執務が終わったあとに、馬を飛ばして現場の督励に赴いたとされています。こうした富岡の功勞に対して開拓地の住民は地名を「富岡」と名付け、その功績を現在にも伝えています。

その後、富岡は熊本県権令に転任し、西南戦争に際会した折に熊本城に籠城を余儀なくされる災難もありましたが、「明治三大築港」と称されることになる三角^{みすみ}（西）港（熊本県宇城市 世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」構成資産のひとつ）の整備に尽力します。

15年にもおよぶ熊本県政ののち、富岡は山梨県に再び住居を移します。貴族院議員としての活躍の場である東京でもなく、故郷の佐賀でもなく、3年ばかりの役人生活を送っただけの山梨を、終の棲家にした富岡の心の内は分かりませんが、夫人の故郷であることや、大小切騒動の顛末など、山梨へ特別な思いがあったことは間違いのないと思われます。晩年の富岡は漢詩集「雙松山房詩史^{そうしょうさんぼうしし}」を刊行するなど山梨県の漢詩壇の中心人物として活躍し、明治42年（1909）その生涯を終えました。山梨県の転換期に大きな足跡を残した富岡敬明については、4月から山梨近代人物館に展示されますので、ぜひ富岡の業績を振り返ってみてください。



恵林寺に建つ「小沢島田武氏之碑」



明治時代の姿をそのまま残す三角（西）港
宇城市教育委員会提供

山梨の文化財

学術文化財課

県指定有形文化財（彫刻）

木造不動明王及二童子像（甲州市 恵林寺）

平成27年2月5日指定

恵林寺は、元徳2年（1330）に夢窓疎石（夢窓国師、正覚国師、心宗国師、普濟国師、玄猷国師、仏統国師、大円国師と7度にわたり国師号を歴代天皇から賜与され、七朝帝師とも称される）によって開山された臨濟宗妙心寺派に属する名刹です。鎌倉時代以後、武田氏代々の厚い庇護があって、禅宗の本拠として興隆しましたが、天正10年（1582）の武田氏滅亡の際に、織田軍の兵火にあつて諸堂は全焼しました。

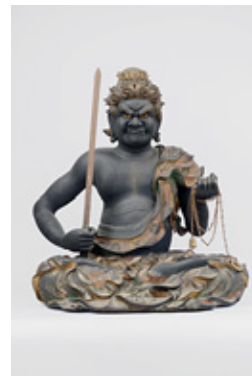
本像は、恵林寺明王殿に安置され、不動明王像を中央に、向かって右に矜羯羅童子像、左に制多迦童子像が配されています。不動明王像は、坐像ながら上半身を強く左に捻り、右肘を大きく外に張って力のこもった表現をみせており、武田不動尊とも称されています。矜羯羅童子像は、通例のように合掌して直立していますが、制多迦童子像は、顔を斜め上に向けて口を開け、左足を大きく踏み上げて両手を前後に振り上げた活気のある姿です。

作者康清は、京都の代表的な仏所である七条仏所の流れである七条西仏所の主要な仏師の一人とみられ、天正11年（1583）には、京都の大徳寺の境内に創建された織田信長の位牌所である総見院の木造織田信長坐像（重要文化財）をその一周忌法要のために造立しています。

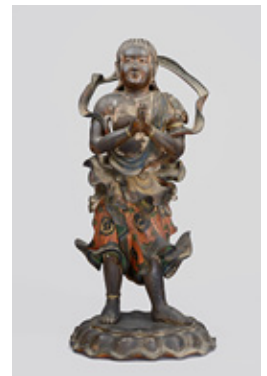
本像は、武田信玄が願主となって造立し、その菩提寺である恵林寺に納めたもので、信玄の姿を写したものと伝えられているとともに、活気のある派手やかな表現を特徴とした優品であり、甲斐の戦国時代を代表する仏像として貴重なものです。



制多迦童子像



不動明王像



矜羯羅童子像

「第2回贈りたい本大賞」が決まりました

県立図書館

県立図書館では「やまなし読書活動促進事業」の一環として、「贈りたい本大賞—大切な人に贈りたい1冊—」の募集を行い、この度、「贈りたい本大賞」を決定しました。応募総数は昨年を上回る2731点でした。

受賞者は次のとおりです。

◇贈りたい本大賞

- 家族へ贈りたい本 『星やどりの声』
応募者：内田成美（甲府西高校）
- 祖父母へ贈りたい本 『永遠の0』
応募者：穂山あかり（駿台甲府高校）
- 天国にいったおばあちゃんへ贈りたい本 『ぼくとクッキーさよならまたね』
応募者：山田光香俐（双葉東小学校）
- 子ども（長女・二女）へ贈りたい本 『ふたりはともだち』
応募者：小澤いづみ（上野原市在住）
- 夫へ贈りたい本 『こやたちのひとりごと』
応募者：佐野良美（南部町在住）

◇学校賞

昭和町立押原中学校、北杜市立甲陵中学校、県立甲府昭和高等学校、県立白根高等学校、県立都留高等学校、県立甲府南高等学校、県立甲府西高等学校、駿台甲府高等学校



贈りたい本大賞表彰式の様子